

パイプオルガンのトリビア

～ vol.1 ～

オランダはパイプオルガンの宝庫、オルガンの国だということをご存知の方はどの位いらっしゃるでしょうか？オルガンと聞けばバツハを連想する方も多いでしょうし、なぜオランダ？と思う方も多いはず。

この「パイプオルガンのトリビア」のコーナーでは、今年1年を通して、意外と知られていないパイプオルガンの魅力、またそれにまつわる裏話を紹介して参りたいと思います。

豪華なオルガンがオランダで盛んに作られるようになるまでには、長い年月がかかりました。こんな話があります。

アムステルダム旧教会のオルガンは1539年頃建造されました。バロック音楽史を代表するオランダ人名演奏家、スウェーリンクがこの教会のオルガニストでした。宗教改革の波がオランダに及ぶ前の話です。当時「パイプオルガンはお祈りの時には演奏してはならない」と禁止されていました。巨匠スウェーリンクも演奏したのはお祈りの始まる前と後だけ。余興として演奏されただけ。「悪魔のような音」と酷評されていたのです！

写真はホールン近郊の町メデンプリックの教会のパイプオルガン(1675)です。よく見て頂くと、細長い棒のようなものが並んでいるのがお分かりになると思います。オルガンパイプといって、金属の筒です。パイプの根元の真一文字の線は、デザイン的な飾りではありません。実は笛(パイプ)の孔(あな)なんです。息をいれれば音が鳴る仕組みで、約1800のオルガンパイプが収納されていますが、大きい楽器の部類ではありません。21種類のパイプは3つの鍵盤に振り分けられ正しく収められています。オルガンは電子キーボードのように音色「1」を選ぶと1の音、「2」を選ぶと2…と音を選択できます。さてここで問題。電気も無い当時に、どんな仕掛けで可能だったのか？しかも正確に？

オルガンはとても複雑な構造です。何千何万ものパーツが細い針金で繋がっています。車のメカニックとよく似ていますので、それを思い出すと分かりやすいかもしれません。それから肺にあたる「風」をためる風箱(タンク)が不可欠です。肺活量が足りないと、何千ものオルガンパイプを鳴らせません。息切れした「悪魔のような醜い音」になってしまいます。

オルガンは構造の複雑さゆえに、ようやく完成したのは17世紀以降。スウェーリンクの時代の楽器は心臓部にあたる風箱が未発達で、あと100年以上待たなければなりません。

このタイムラグは吉と転じました。オランダの教会は1630年代にパイプオルガンの使用を認可します。オランダ改革派の時代になりました。改革派は聖書の言葉を最も重視する教会。→賛美歌(詩篇歌)は聖書の言葉。→会衆の伴奏を担うパイプオルガンは、布教と教会の発展のために欠かせないものとなります。

こうして、オルガンの発展の道が開かれました。

17世紀はオランダ黄金時代真っ盛り。レンブラントやフェルメールが活躍したのも17世紀。オランダのパイプオルガンの発展に幸運をもたらしました。都市から地方の田舎町に至るまで町の威信を競い合うように建設ラッシュが始まります。もし1世紀ずれたら今日の発展はなかったかもしれません。

文：塚谷水無子



Bunzlau Castle

ポーランド陶器のファーストクオリティ、ブンツラウカステルを
あなたのテーブルにお届けします。
ウェブショップでお待ちしております。

<http://www.hareka.eu>

